

条件を超えて (マルコ 12:1-12)

神様を離れて以降、人類は人間的な条件で幸せが左右される、また、神様の祝福もその人間的な条件に左右されるものだという勘違いの中を生きていくことになりました。しかもそれがごく自然で当たり前だと思って生きていました。今日の聖書の箇所は、神様に選ばれたイスラエルでさえ、そのような勘違いの中で生きてきたというイエス様からの指摘なのです。聖書を持っていたにも関わらず、イスラエルの歴史はこの勘違いの繰り返しでした。最終的にはその勘違いによって神の御子を殺す、恐ろしい結末を迎えるようになったというたとえ話なのです。それでイエス様が見捨てられた石となって、建物の礎の石とされました。つまり、このような勘違いから抜け出して、イエス様をキリストと信じて、神の恵みにより救われた人々を通して新しく始められたという意味です。なので、今日のこの聖書の箇所、またイスラエルの勘違いの歴史、恐ろしい結末を迎えるしかなかった勘違いを踏まえて、私たちはこの勘違いが全部崩れ落ちる真理のメッセージを聞かなければなりません。人々の勘違い、また、イスラエルの勘違いは、福音を拒否します。拒否するだけではなくて、福音を攻撃することになります。それが勘違いの怖さというものなのです。ここで今、イエス・キリストを信じて信仰生活をしている私たちに、神様がこの勘違いが打ち破られる真理のメッセージを語っているということ覚えて、それを聞いて心に留めることにしましょう。

1. 条件を超えて、キリストある人は神の祝福の主人公と確信せよ。

まず第一に、神様はこのようにおっしゃっています。人間的な条件、すべてを超えてキリストある人は神様の祝福の主人公だという確信を持ちなさいとおっしゃっています。もう一度言います。人間的なすべての条件を超えて、条件がどうであれ、キリストある人は神様の祝福の主人公という確信を持ちなさいと、いま私たちに神様は語っていらっしゃいます。

1) 同じ人間は皆無-人間的な条件は評価の材料でない

この世の中に同じ人間はひとりもいません。たとえ一卵性双生児であっても違います。人はそれぞれ出身が違うし、またバックグラウンドも異なります。その人が持っている才能、能力も違います。今まで経験してきた内容もそれぞれ違います。いま置かれている環境、状況なども違うし、その人の今のポジションというのみなそれぞれ異なります。しかし、その人間的な条件がその人を評価する材料になるものではありません。また、材料になってもいけません。同じ人間はひとりもいませんが、それが互いに比較して、また憎みあったり嫉妬したりする理由にもなりません。

2) 聖書の信仰者の確信

ヨセフ、モーセ、ダビデ、ダニエル、初代教会、パウロ

人間的な条件が私を評価する基準にならないことがわかって、キリストある人はこういう条件を超えて祝福の主人公だという確信を持っていた聖書に記されている信仰の先輩たちがたくさんいました。そのことを確認していきましょう。例えば、ヨセフという信仰者は奴隷でした。奴隷の身分、奴隷の状況だったにも関わらず、それで自分はダメな人間だとは一度も思ったことはありません。にも関わらず、その条件を超えて私は神様の祝福の主人公なんだ。私は神様に祝福されている者だ。今こういう状況の中でも私は幸いな者だという確信を持っていたわけです。モーセも同じです。荒野という険しい環境を通過していました。だから皆、なんでこういう状況、こういう環境を通らないといけないのかと呟きばかりだったにも関わらず、同じ状況の中でもモーセはその荒野という険しい条件を超えて私は幸いな者なのだ。私は神の祝福を受けている者なんだという確信を持っていたので勝利者になりました。ダビデも同じです。皆がこの確信を持っていたので勝利を収めることができました。悪いことを何もしていないのに憎まれて人生の半分ぐらいは逃亡生活を強いられることになり、ときには死の影の谷を歩くようなつらい場面に遭遇することもありました。にも関わらず、そういうすべてを超えて、主は私の牧者、羊飼いであり、私に乏しいことはありません。私は祝福の存在なんだという確信を失ったことはありません。ダニエルも同じです。国が滅びて捕虜になってしまいました。そうするとほとんどの人が落胆して諦めるしかありません。けれどもダニエルは、一度も自分が捕虜の身分だからといって自分をダメな人間と思ったことはありません。に

も関わらず、私は神に祝福された幸いな者なんだという確信を持っていたわけです。今このお話を聞きながらも、あまりにも多く聞いていた内容なので、なるほどと頷いているかもしれませんが、普通はあり得ない話なのです。なぜなのでしょう。冒頭で申し上げましたように、人間的な条件によって幸せと神の祝福が左右されるという勘違いが当然なもの、当たり前なものになっている世の中を生きてきた者なのです。私たちもそれにどっぷりはまって慣れてるわけです。その真逆のことを聖書が語っているわけです。条件がどうであれ、キリスト・イエスを持っている者は幸いな者なんだという確信を逃してはいけません。初代教会の人々はローマの植民地でした。また、社会で指さされる下っ端をくぐるような人ばかりだったのです。別にそれがいいという自慢ではありませんけれども、しかし、そのような環境、条件を超えて、彼らは私たちは世界で一番幸いな神の祝福の主人公だという確信を持っていたので、揺れることなく祈ることができたわけです。そして、パウロという人がまたその代表的な人なのです。さまざまな苦難に会い、刑務所の中に収監されることもたくさんありました。にも関わらず、刑務所の中でそれを超えて「私は幸いな者なんだ。私は神の祝福の主人公だ」という確信を失ったことが、奪われたことが一度もありませんでした。こういう人を弟子、クリスチャンと言います。なぜなのでしょう。それが事実なのです。勘違いさえ勘違いだと心から認めればいいのです。でも礼拝を捧げて、神のみことばを聞いているにも関わらず、「でも、そんな…」とついつい癖のように自分の心からそういう反応を見るようになるでしょう。条件を超えて、キリストある人は神の祝福の主人公であるという確信をしっかり保って、それを奪われることがないようにしていきましょう。

3) 条件は一つ-キリストにあって

ヨハネ 19:30、ローマ 8:1-2、I コリント 3:16、エペソ 1:3、ローマ 5:8、8:15、エペソ 2:19、ピリピ 3:20

なので、私が幸せな者だ、神が私を祝福されたということを確認を持って言える条件は一つしかありません。人間的な何かの条件とは全く関係ありません。自分の家庭環境がどうなのか、能力があるかどうかは、自分を評価して神の祝福の主人公だという確信を持つための材料、条件になるものではありません。一つだけなのです。キリストにあって。そのキリストが十字架の上でこのように宣言されました。ヨハネ 19:30「すべてを完了した」と。そのキリスト・イエスを信じて受け入れた者は、イエス様が十字架の上ですべてを完了なさったと宣言されました。その宣言が丸ごとその人のものになります。その人の人間的な条件がどうであれ、どのような過去を生きてきたのか全く関係なく、条件を超えてすべてを完了したという宣言がその人に当てはまるようになり、その人のものになります。何を完了したのでしょうか。イエス・キリストを受け入れる人は、ローマ 8:1-2、今まで死と罪の原理に囚われていた人々が、いのちと御霊の原理によって、その死と罪の原理から解放されることが完了したわけです。だから、祝福されて幸いな者なのです。どのようにして解放されたのかと言いますと、I コリント 3:16、あなたがたは聖霊が宿っている神の神殿であることが分かっていないのか。目に見えないから誰も信じないでしょうけれども、だからついつい目に見える条件に振り回されることに慣れているのですが、イエス・キリストを信じる者は三位一体の神様が創造の神様が聖霊を通してその人の内側に入って、その人を住まいにして住まわれる、だから神の神殿と呼ばれるものとして祝福されているわけです。神様ご自身が私たちに入ってこられて、ともにおられることになりました。それ以上、何が欲しいのでしょうか。何が足りないのでしょうか。だから、刑務所の中にも条件がどうであれ、エペソ 1:3、天にある霊的すべての祝福が私のものなのです。その確信を持って堂々と言えようにならないといけません。そのような祝福に預かりましたので、私たちはいつでもどのような条件、状況の中でもこのように大胆に宣言できます。ローマ 5:8、「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます」。私は神様に愛されている者なのです。たとえお父さん、お母さんの愛情がなくても私は大丈夫なんだ。そのように自信を持って言えるものであり、そのように言わないといけません。でもサタンはささやきます。「お前はこういう家庭環境でしょ。親に見捨てられたらどう。障害を持っているだろう。ほかの人と比べて成績も悪いし、才能もないくせに何が幸せなのか」とささやくわけです。それが勘違いなのです。神様を離れて以来、悪魔サタンに支配されて生きる世界の中での勘違いなのです。イスラエルもずっとそういう勘違いだったので、イエス・キリストを殺します。勘違いは恐ろしいものなのです。その勘違いを捨てて、そこを脱ぎ捨てて、真理のメッセージをしっかり心に留めましょう。条件などを超えて、キリストある人は神の祝福の主人公です。それでキリ

スト・イエスあるものは、ローマ8:15「あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます」。そういう祝福の存在です。堂々と言えるようにならないといけません。エペソ2:19には「こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです」。神のファミリーになりました。いつでもどんな状況の中でも、どんなときでも、私は神様の祝福を受けている祝福の者なんだ。祝福の主人公なんだ。だから幸いな存在なんだと言えるようにならないといけません。しかし、今まで慣れてきた、癖になっている勘違いによって邪魔されるわけです。そうならないよう。イスラエルの勘違いはそこで終わりなのです。その勘違いから抜け出してイエス・キリストを信じている者を通して、キリスト・イエスが新しいイスラエルを始められる石礎とられました。皆さんは新しいイスラエルなのです。新しいイスラエルは、滅びるしかないイスラエルが持っていた勘違いはもう終わりにしないとダメです。条件を超えて。ピリピ3:20、刑務所の中で今語ってる内容です。キリスト・イエスを信じている者は、天の御国の国籍を持っているんだと。いつ死んでも天国に迎え入れられるように保証されているだけではなくて、この地上にいるときに天の御国のわざがその人に現れるようになっていきます。そういう存在です。地上のものは何もなくてもいいという幼稚な話ではありません。しかし本当に何もなくてもかまいません。許されているものがあれば、それは福音宣教のための聖になる道具として大事に大事に使うだけのものです。この世の中に未練や希望を持って生きる者ではなくて、私たちは天にある霊的すべての祝福の主人公という確信を持っているので、世の中を旅人として、巡礼者として生きるだけなのです。この世に目標や何かがある存在ではありません。神の目標のために旅人して未練を持たないで、恐れることもなくこの世を歩いて行く旅人なんだということを忘れてはいけません。でも、なぜなかなか自分自身を自分の人生をそのように思うことがないのでしょうか。自分が条件など関係なく、世にあるものがあるかないかなど関係なく、神の祝福の主人公だという確信が欠けているからなのです。これが第一です。だから信者であれば、自分自身に対してどんな場合でも否定的な思い、否定的な単語は100%悪魔の偽り、嘘だと断言しないとダメです。もちろん反省して悔い改めることを否定するわけではありません。自分の過ちはしっかり認めて修正して行く。なぜでしょうか。祝福の者だから。ただそれによって自分自身に対して否定的なセルフイメージを持つということは100%、200%嘘です。これがなかなか難しいです。レムナントの時からそのような確信を持って残りの生涯をよその人と違って、堂々と神様のミッションのために生きて行くスタート、また覚悟が求められるのではないのでしょうか。このような確信を持っているともう一つ神様から真理のメッセージが語られることとなります。

2. 条件を超えて、キリストある人は世を生かす主人公と確信せよ。

二番目です。人間的なすべての条件を超えてキリストある人は、この世を生かす主人公なんだと確信しなさいとおっしゃっています。今少し申し上げましたように、そこら中の人と一緒に競争しながら、この世に未練や欲があって生きるものではなくて、この世を生かす主人公として召されているという確信を持ちなさいとおっしゃっています。

1) 勘違い-3、6、11

勘違いをしている限りは、このような確信、誇りなどは期待できません。今、世の中は本当に勘違いの中に溺れているのです。自分さえうまくいけば、肉体的に裕福になれば、世において認められて成功を収めれば、それが幸せだと勘違いして生きているところなのです。

2) 世の実体-条件と関係なくキリストでなければ希望のない世界

エペソ2:1-3、ヨハネ8:44、6つの運命、サタンの鎖

しかし、私たちはこの世の実体を聖書を通して、正しく見て分かっているものなのです。この世というところは、条件がどうであれ関係なく、キリストじゃなければ全く希望のない世界なのです。世の中ではこうすれば、ああすればと色々な方策を練り出して展開しようとしています。別に悪くありません。しかし、私たちは分っています。世の中があのように、このように変わる場合もありますが、そこに答えもないし、希望などないその世界なんだと。なぜなのでしょう。条件などがどう変わろうが、まったく変わらない、解決にできない、そのような問題を抱えていることがわかっているのです。エペソ2:1-3、この世の中は、条件がどう変わろうが、時代がどう変わろうが、家族が科学がいくら発展しようが、自分の財

貨と罪との中であって死んでいたものであり、空中の権威を持つ支配者、悪魔サタンに支配されて、自分の頑張りとは関係なく、悪魔が作り出した世の流れに流されるしかありません。だから、生まれながら神の御怒りを受ける子らとして生まれる、そういう世界なのです。だからイエス様は明確におっしゃいました。ヨハネ8:44、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者である。だから霊的な問題を抱えるしかないし、霊的な問題、精神的な問題を呼び、それがさまざまな病を招いて、その人の人生そのものが壊れてむなしくなり、結局は死んで永遠の地獄に行くしかない運命に囚われて、それが子孫三代、四代ずっと受け継がれるようになる運命に囚われて生きているところなのです。地球にもものすごいロケットを打って月に到達した。うわあとみな歓声をあげるからといって世の中が変わると思いますか。ロケットは運命を変えることはできません。サタンはこの運命に囚われ、一步も出られないように人類を鎖に縛るわけです。偶像や宗教や占いやあらゆる思想、イデオロギーなどの鎖で人類を縛って、身動きも取れないようにしているものなのです。これがこの世界、世の中の実体です。

3) キリストの所有者こそ希望の主人公

ガラテヤ2:20、マタイ5:14、使徒3:6、Ⅱコリント5:20、エペソ1:23、使徒1:6-8

それがわかっているならば、世の中に希望は科学や芸術や政治ではなく、教育でもなくて、キリストの他には希望がないということが明白になり、だからこそキリストを持っている者こそがこの世の希望であり、この世を生かす主人公になるということに、これっぽっちも疑うことなどありません。だから教会が大変なのです。だから皆さんひとりひとりがどれ程大事な大切なのか、気づかなければなりません。なのにまた何かの条件や状況などに振り回されて、悪魔のささやきに騙されるでしょう。こうなんだ、ああだから。まずそれをどうにかしないと。もっと出世しないと。私たちはそういう存在ではありません。条件がどうであれ、社会の一番下っ端の仕事をしていようが大統領であろうが、キリストを持っている者は目的が同じなのです。暗闇の世を生かすための主人公として召されている者なのです。それを確信しないといけません。それが真のメッセージなのです。条件によって右に左にふらふら振り回されることがないようにしましょう。また条件によって自慢したり、偉そうに高ぶったりということも愚かなことなのです。聖書には、キリストを持っている者は時代がどう変わろうが、立場がどうであろうが、このように宣言されています。私はキリストとともに十字架で死んだ。今はキリストが私のうちに生きています。だからその人は、信者は主人公なのです。その人の外見がどうであれ、いま置かれている立場がどうであれ、それを超えてキリストがその人の内側にいらっしゃるの、その人こそ希望なのです。なのに、クリスチャンのひとりひとりが学校に行き、職場に行き、家庭に戻り、その意識を持たないのです。だから同じレベルで争ったりするでしょう。それで負けるとがっかりして、少し上回ると偉そうな気持ちになったり。キリストが私のうちに生きています。だからマタイ5:14には、あなたがたは世の光なんだと宣言しています。使徒3:6を見ますと、足のきかないものに対してペテロが言いました。金銀は私にはない。私にあるものをあなたにあげよう。私にあるから。皆さんの人格や皆さんの何かではなくて、私にあるものイエス・キリストをあなたにあげよう。キリストのほかには希望がないから。キリストが絶対必要なもので。そういう存在として召されているわけです。Ⅱコリント5:20ではパウロが言います。私たちはキリストの使節と呼ばれている者なんだ。神様と罪人が和解できるように、その間に立って手伝うものなんだ。キリストの使節なんだ。キリストが私たちを通して働くようになる、そういう道具なんだ。同じ意味でエペソ1:23には、キリストのからだなる教会とあります。何回も皆さんにお話ししたように、私たちのからだのすべては脳の指令によって動くものなのです。脳の意志を実行するものなのです。私たちの脳、頭がキリストなのです。キリストのからだです。私たちはキリストの意志、キリストの命令、キリストの御心、それを実行するようにそのからだになっているものなのです。私たちを通してキリストが現れる。それがキリストの体なる教会という意味なのです。そういうふうに私たち造り変えられて召されました。だからイエス様を最後の最後に、聖霊があなたがたに臨まれるときに、力を得て、エルサレムから地の果てにまでわたしの証人となります。あなたがた以外に地の果てにまで希望はありません。あなたがたを通してこの暗闇の世界を助けると最後におっしゃいました。人間的な条件がどうであれ、それを全部超えて、キリストあるからこそ私はこの世を生かす主人公という確信を何が何でも保っていかないといけません。だから、それが祈りに変わるわけです。なぜ御座の力が必要なのでしょう。このような存在だからなのです。皆さんがほかの人より出世するために御座の力が必要になるわけではありません。イスラエルの勘違いがどれほど恐ろしいものだったのか。キリスト・イエスを受け入れた者は、その勘違いから解放された

れて自由になっている者なのです。新しく始まったその新しいイスラエル、教会の一員になりました。ならば、勘違いをひっくり返す、勘違いで全部崩れ落ちる真理のメッセージをしっかり握らないといけません。人間的な条件を超えて、キリストある者は神の祝福の主人公で、すべての条件を超えてキリストあるものはこの世を生かす主人公なのだという確信を持つべきです。皆さんが学校にいても、どこの現場にいても、主人公として行かないといけません。たとえ今入社したばかりの社員で、社長さんの前であっても私が主人公です。態度は謙虚に。主人公だから。

4) 悲しむ(憐れむ)心

4年ぶりにコロナから自由になって日本各地で祭りがまた再開されてみんながわあわあとしています。クリスチャンの私たちがそういう風景、様子を見たときに、本当に心痛めるということがあるのでしょうか。皆さんがこの世を生かす、この世の実体がわかっている主人公に間違いなければ、日本中の要所要所にお寺や神社がたくさんあることを見て、どういう思いで見えらっしゃるのでしょうか。多くの人がお守りやお札をフダを当たり前なものとして携帯することに対して、皆さんの心は痛むことがあるのでしょうか。七夕の季節になって、それが大きなイベントになるときに、それを見ながら皆さんはどういう思いで見えらっしゃるのでしょうか。政治家が靖国参拝に行った時に、その様子を見ながらどのような思いで見えらっしゃるのでしょうか。政治がどうのこうの話ではありません。私たちは生まれながらそういうものが当たり前の環境の中で、しかもそれが日本の伝統であり、すごい良い物のように教えられて、その中をずっと育てて生きてきたので何の違和感もないかもしれません。それではこの世の主人公として自分が召されたという意識、その自覚は持つことができないでしょう。それを見ながらクリスチャンの私たちは心から悲しまないといけません。マタイ5:4、悲しむ者は幸いですと言われて、その意味がそういう意味なのです。レムナント教会のクリスチャンだけでも問うてください。なるほど、だから偶像に支配されるこの国に私が生まれてクリスチャンになりました。なぜなのでしょうかと神様にずっと問いかけつつ、心痛めながら悲しみながら、自分が暗闇の日本の国を生かすために召されている主人公なんだという確信と自覚を持って残りの生涯を歩いていく、また、どんな場面でも動いていく。だから派遣された宣教師として生きてくことになるでしょう。それが祈りにつながるのです。何を祈るのでしょうか。何を食べるか飲むか着るか、その祈りしかないのではないのでしょうか。なぜなのでしょう。いまだに勘違いしているからです。日本の方々が聞くと腹が立つかもしれませんが、そういったものはただの文化ではありません。それを公に口を開いてペラペラ喋るという意味ではありませんが、私たちは悲しまないといけません。偶像との戦争なのです。そのために召されている主人公なんだという意識を持つべきなのに、そういう感覚がないので、自分がこの国を生かすために召されている主人公だという確信、その自負などもなかなか持てないし見られないのではないのでしょうか。私たちが人格的に優れて真面目な人間だから神様が祝福されるわけではありません。本当に成績が悪くても、たとえ性格がまだまだ修正されていなくても、この偶像の文化を見ながら悪魔サタンの暗闇の勢力を見て、それと戦う覚悟を決めて祈る人、神様はそういう人を祝福されるわけです。優しい人間になるから祝福されるわけではありません。それが全部勘違いなのです。二部礼拝でももう少し細かく申し上げるつもりなのですが、真理のメッセージを聞いて、すべての勘違いから自由になりましょう。それでその勘違いが終わって、キリストを礎にして新しくスタートした神の国の中の祝福を改めるよにしましょう。

今日のメッセージを契約として握って、だからこそ集中しましょう。なぜでしょうか。刻印を変えないといけません。いくら聞いていても生まれながらずっと刻印されているものがそのまま残っていることが多いのです。一回聞いてなるほどが一番大切です。なるほどにならない人も多いけれども、一回なるほどしただけで刻印がすぐ変わるわけではありません。なるほどになったとすれば、それを集中してそれから反復して私に刻印させないといけません。それが一番謙虚な人です。今までの刻印があるということを確認することで。イスラエル人が勘違いしてずっと勘違いのままであるのと同じように、私たちにも今まで勘違いして生きてきたそういうものが刻印されてはずなんです。救われたにも関わらず。だから契約、真理のメッセージ、光のメッセージ、Onlyのいのちのメッセージを握って集中して反復していく、そういう心構えが求められます。それさえあれば、必ず奇跡を見て証人となります。それで以前の私みたいに条件に縛られてさまよい苦しんでいるたましいに大胆に、そして謙虚におあかしして、そういう人々を助ける証人の人生を歩くことができるようになります。そうなることを主の名により祝福をいたします。

(祈り)

恵み深い父なる神様。イエス様の指摘どおりイスラエルの歴史は勘違いの連続でした。繰り返しでした。どうかその勘違いを正しく理解して、その勘違いが終わって、新しくスタートした教会の一員になっていることを覚えて、神様からのメッセージを握ってすべての条件を超えて祝福の人であり、また伝道者であるという契約を握って、世の実体を正しく見つめて、それが刻印されるように祈り、証人として用いられるように一ひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン